

# Syllabus

開講年度	開講学部等	日英区分:日本語		
2023	共通教育			
開講学期	曜日時限	授業区分	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント	YFL育成プログラム
前期集中	集中	講義	7.4	
時間割番号	科目名[英文名]			単位数
1001220016	知財展開科目B2(ものづくりと知的財産)[Intellectual Property Development Subject B 2]			2
担当教員(責任)[ローマ字表記]				
生田 容景				
担当教員[ローマ字表記]				
生田 容景				
区分	対象学生	全学生	対象年次	

## 持続可能な開発目標(SDGs)



※この科目は、学部生向けに開講しています。  
同時に山口大学知的財産教育プログラム(履修証明プログラム)として提供される科目(1単位15時間以上)です。  
履修証明プログラムにおいても科目の修得基準は60点以上です。  
また、本科目では教員、学生間が双方向で議論する授業を行います。開講日時は決定次第、担当教員よりお知らせいたします。  
※4日間の集中講義<9/23.9.16オンライン開講を予定>

## 開設科目名(英訳)

ものづくりと知的財産(Creative Design and Intellectual Property)

## 使用言語

日本語

## 概要

ものづくりと知的財産では、身近なものづくりの視点で知的財産取り扱いの現状について解説し、知的財産の役割と機能について学びます。また、身近な製品やサービスに様々な知的財産が活用されていることを知り、ものづくりに必要な知的財産について学び、社会から求められるものづくりリテラシーについて考えます。さらに、問題解決や課題解決を通して身近な製品やサービス創出の方法を検討します。そのために、個人ワーク又はグループワークを行いながら、課題の発見・アイデア出し・創作から製品化までを疑似体験します。

## 一般目標

### 【一般目標】

本講義は受講者が、

- ものづくりの全体像と産業財産権について理解し、適切に利用する方法や態度を身につける、
  - 身近なものづくりについて、知的財産の観点から考える力、創造する力を身につける、
  - 創造的に考え、行動するための方法を知り、実践しようとする態度を身に付ける、
  - 身近なものづくりについて、知的財産の観点から初歩的なまとめる力と発信力を身につける、
- ことを目的としています。

## 授業の到達目標

知識・理解の観点	知的財産を軸にもものづくりの全体像を把握することができる。
思考・判断の観点	ものづくりにおいて、知的財産を軸に合理的な企画を立てることができる(課題の発見とアイデア出し)。
関心・意欲の観点	ものづくりの一連のプロセスを、知的財産の観点から積極的に分析・検討することができる。
態度の観点	ものづくりの一連のプロセスに、知的財産の観点から能動的に対応・実践することができる。
技能・表現の観点	ものづくりにおいて、知的財産の観点から能動的に対応する初歩的な能力とスキルを形成する。
その他の観点	事業戦略の観点から知的財産を俯瞰することができる。

## 授業計画

### 【全体】

ものづくりの一連のプロセスを、知的財産の観点を取り入れながら総合的に体験することで、関連の知識とスキルを習得します。個人ワーク又はグループワークで、先行する知財情報等を調査しながら、実際の簡単な試作品を制作してもらいます(厚紙工作程度)。最終発表は、個人又は各グループで制作した試作品につ



第12回	課題(3)完成予想図、構成要件・試作に必要なパーツ等の洗出し 課題(4)従来技術のサーチ	課題テーマにおいてアイデア出した解決方法にもとづく試作品制作(厚紙工作等)や先行特許文献の調査などを行う。	講義資料を参照して復習を行う。課題テーマのまとめ資料(簡易明細書、試作品紹介動画)を作成する。 (目安時間:3時間)		[少](授業時間の15%未満)	[少](授業時間の15%未満)	[多](授業時間の50%超)	[少](授業時間の15%未満)	[あり]	----
第13回	課題(5)プレ発表(試作品紹介動画での簡易プレゼン)ケーススタディ(1)	課題テーマに関して取り組んだ内容を、作成した試作品紹介動画などを用いて簡易的に発表する。これまでの講義内容を振り返り、知的財産の基礎についてケーススタディを行う。	講義資料を参照して復習を行う。授業計画や指示に従って準備学習を行う。 (目安時間:2時間)		[少](授業時間の15%未満)	[中](授業時間の15%~50%)	[少](授業時間の15%未満)	[多](授業時間の50%超)	[あり]	----
第14回	ケーススタディ(2) 課題(6)ブラッシュアップ(発表資料)	知的財産権の活用と関連してオープン・クローズ戦略についてのケーススタディを行う。課題テーマに関してまとめた資料(簡易明細書)の最終のブラッシュアップを行う。	講義資料を参照して復習を行う。授業計画や指示に従って準備学習を行う。 (目安時間:2時間)		[少](授業時間の15%未満)	[少](授業時間の15%未満)	[多](授業時間の50%超)	[少](授業時間の15%未満)	[あり]	----
第15回	課題(7)最終発表 総評	課題テーマに関して各自まとめた簡易明細書(従来技術、課題、解決手段、効果、図面、実施の形態、請求項)について最終発表を行う。発表後総評を行う。	これまでの講義全体を振り返る。普段の日常生活においても知財の観点から課題の発見、アイデア出し(解決手段)、まとめるを実践してみる(パテントコンテストへの応募など) (目安時間:2時間)		[少](授業時間の15%未満)	[少](授業時間の15%未満)	[少](授業時間の15%未満)	[多](授業時間の50%超)	[あり]	----

#### 7.4ポイント

#### 成績評価法

##### 【全体】

定期試験は行いません。授業内外のレポート、成果物と発表(プレゼン)を総合して評価します。

##### 【観点別】

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	JABEE収集資料
定期試験(中間・期末試験)	---	---	---	---	---	---	---	---
小テスト・授業内レポート	---	---	---	---	---	---	30%	---
宿題・授業外レポート	---	---	---	---	---	---	20%	---
授業態度・授業への参加度	---	---	---	---	---	---	---	---
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品	---	---	---	---	---	---	50%	---
演習	---	---	---	---	---	---	---	---
出席	---	---	---	---	---	---	欠格条件	---
その他	---	---	---	---	---	---	---	---

#### ループリック等の評価基準

	ファイル名	備考
ループリック等の評価基準	設定されていません。 設定されていません。 設定されていません。	

(注)ループリックとは、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される評価指標のことを言います。

#### 教科書にかかわる情報

##### 備考

講義資料は必要に応じて配布又は配信します。

#### 参考書にかかわる情報

参考書	書名	これからの知財入門:変革の時代の普遍的知識		ISBN	978-4-8222-3642-7	
	著者名	山口大学大学研究推進機構知的財産センター著	出版社	日経BP社		出版年

##### 備考

参考書は、1年次共通教育科目「科学技術と社会(\* \*学部生のための知財入門)」で使用した書籍と同じものです。持っている方は持参ください。

#### メッセージ

#### キーワード

特許、意匠、商標、開発戦略、知財戦略、事業戦略、標準化

## ■ 持続可能な開発目標 (SDGs)

(経済成長と雇用)包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。  
(インフラ、産業化、イノベーション)強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。

## ■ 関連科目

科学技術と社会( \*\* 学部生のための知財入門)  
知財情報の分析と活用  
特許法  
意匠法  
商標法  
不正競争防止法

## ■ 連絡先

ykleee@yamaguchi-u.ac.jp 李

## ■ オフィスアワー

宇部の常盤キャンパスで業務を行っています。  
とりあえずはメールでご連絡ください。